

2. 都市圏の背景 『ブカレストを知ろう』

2.1 市街地発展の歴史

ブカレストの名前が歴史に登場するのは 15 世紀に入ってからであり、1459 年ヴラド公によりワラキア公国の首都として設立されたといわれている。オスマントルコとは常に最前線で対峙していたにもかかわらず、独立を守り続けてきた。ルーマニア王国として独立した 19 世紀後半にはすでに近代的な都市に発展しており、1861 年にはパリやベルリンに先立ちガス灯が導入され、1871 年にトラムも開通した。ヴィクトリア通りに並ぶ建築物もこの頃建設されたものである。かつてはバルカンの小パリと呼ばれ、その面影は現在でも中心街の一部に残されている。1930 年代には現在の既成市街地の主要な部分は既に完成されていた。

1947 年以降共産党政権下のもとで市の東部、南部、西部に住宅地が建設され、更にその延長に大規模な工業団地も建設された。1980 年代に入ると市中心部の古い建物が撤去され、人民宮殿などの巨大な建物の建築が開始された（図 2.1）。

2.2 ブカレストの地勢的位置

ブカレストは、黒海のコスタンツァからハンガリー、オーストリアを経て西ヨーロッパへ至る東西の軸と地中海のイスタンブール、アテネからウクライナを経てロシアに至る南北の軸が交差する十字路にある。それだけに古代から現代に至るまで、ローマ、ビザンティン帝国、トルコ、オーストリア、ロシア、ドイツなどの強国にはさまれ影響を受けてきた。現在その地勢上の利点を十分に利用しているとは言い難いが、国際的な人と物の交流の場としての発展の可能性は高い。

2.3 自然条件

地形は平坦であり、都市の形成や交通網の発達に妨げとなるような大きな自然障害はない。このことがブカレスト都市圏の道路網が一見見事な放射環状パターンを呈している一因ともなっている。市を横切るドンヴォヴィツァ川と市の北側に存在する幾つかの湖の存在は、この周辺の地域が河川堆積物で覆われていることの証しである。過去に幾度か地震におそわれているため、都市計画および構造物建設の配慮が必要である。

2.4 移行期の経済

ルーマニアは他の東・中欧諸国と同様、計画経済システムから市場経済システムへの移行期にある。ルーマニアにおける移行の進捗状況は、先進的なチェコ、ハンガリーよりも遅く、1993－1996 年まで順調に伸びてきた GDP も 1997 年以降マイナスに転じた。

特に、これまでルーマニア経済を支えてきた国営の重工業関連産業が、市場化経済にさらされ急速に衰退してきている。これらの工場の民営化、ハイテク関連産業等の育成、経済再生に向けての制度改革等解決すべき喫緊の課題が多い。また、市場経済への移行にともない、これまで経済的格差のなかった社会に経済的格差が生じてきているうえに、アンダーグラウンド経済による富の偏在が社会の不満を増幅させてきている。

2.5 人口規模と密度

ブカレスト都市圏の人口は 215 万人であり、これはヨーロッパにおいても、ロンドン、パリは別として、近隣のブダペスト（200 万人）、ワルソー（170 万人）、ソフィア（140 万人）、プラハ（120 万人）などと比べても多い。

人口密度の高さも 3,600 人/km²と、ワルソー（3,400 人/km²）、プラハ（2,400 人/km²）、ブダペスト（1,200 人/km²）に比べて高い。調査地域の特色は、連担する高密度住宅地に隣接して農地ないしは工業地区があるため、低密度の住宅地が少ないことである。それゆえに、ブカ

レスト市はコンパクトな高密度の街となっている。しかし、近年、外環状道路近傍に自動車利用を前提とした低密度住宅地の開発が見られ、スプロール化の兆しがみられる（図 2.2 及び図 2.3）。



Historical buildings

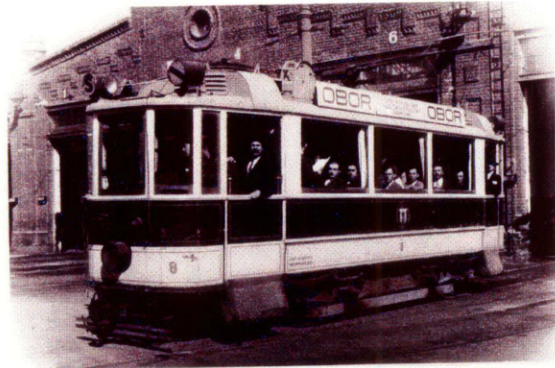
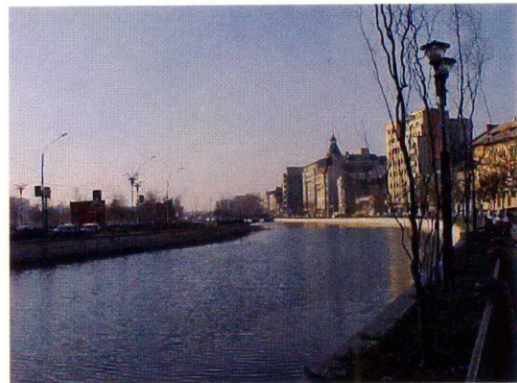


Photo of Vintage Tram in old age



Green spaces near Triumph Arc



Dambovitza River in the central area



Piata Unirii



Tall residential buildings

図 2.1 ブカレスト市街地の今昔

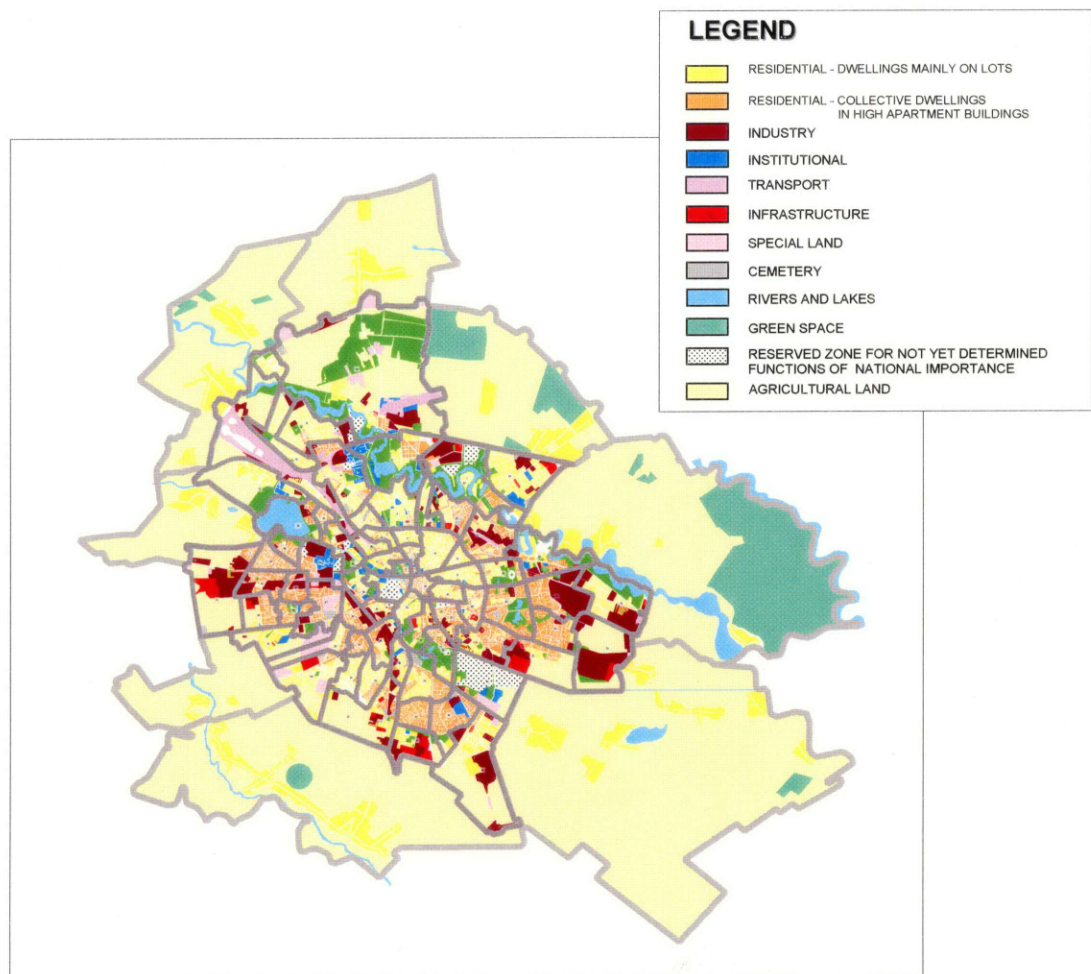


図 2.2 現況土地利用図

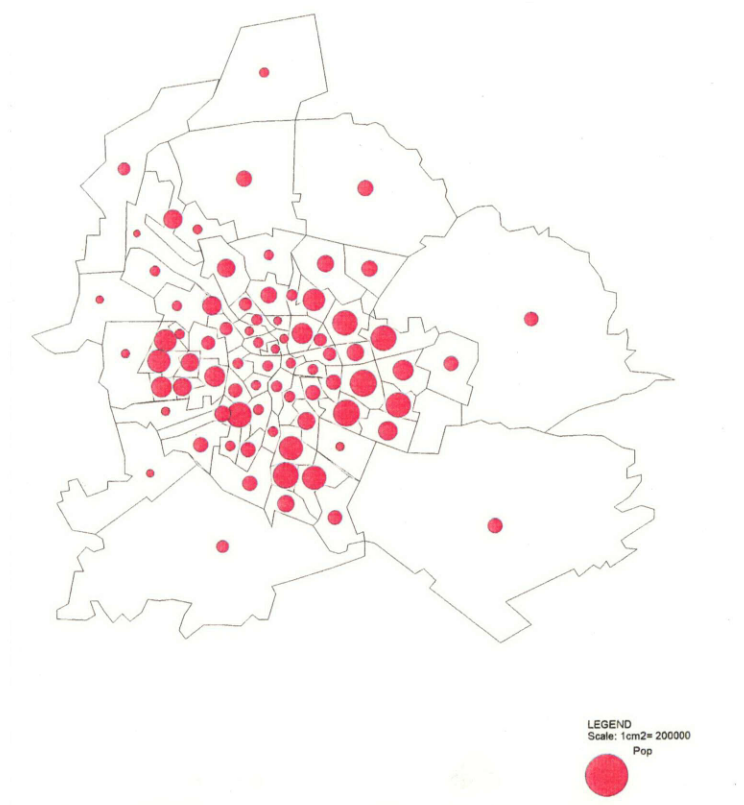


図 2.3 ゾーン別人口